

令和元年度政策討論会 第二分科会（第4回）要点記録

日 時	令和元年 10月21日（火） 15:00～16:00
場 所	第1委員会室
テーマ	交通弱者への対応について
出席者	○堂本啓祐 反甫旭 南加代子 岩崎雅秋 河合馨 ◎岡林憲二 雪本清浩 今口千代子 (議席番号順)

◎座長 ○副座長

(座長)

今回はテーマに関して、本市の現状及び課題抽出をしていただいた。本日は、他市の先進事例について各委員より紹介いただきたい。

(委員)

他市の先進事例資料を拝見しました。地域性や本市のように縦長の地形からくる課題もあるので、単純に本市には適用できない面もある。交通空白地帯だからといってバスを運行すればすべてが解決するわけではない。住民の困りごとがどこにあるのか、買い物なのか、病院なのか等、精査する必要がある。

(委員)

前回の続きとして、交通弱者とは何であるのか、何を指すのかを明確にしておく必要があるのではないか。

(委員)

交通弱者の定義として、交通空白地帯に住む人、障がい者、高齢者等考えられる。障がい者については福祉的に対応していくので、この分科会で議論する交通弱者とは、健常者ではあるが自分で移動できない人を対象にしてはどうかと考えている。

(座長)

交通弱者の定義づけはまた後に議論したいと思います。先進事例を続けます。

(委員)

相川・塔原地区の地域バス試験運行の資料をいただきありがとうございます。病院、買い物するにも移動手段がないという声、独居老人が出かけられないとか銭湯まで距離があり行けないとかの話も聞く。そういう対象の方にアンケートを取るのも一つの方法

だと思う。

先進事例としては、高齢者にタクシー運賃を助成している市があり、岸和田でも進めていきたい。

(委員)

本討論会のテーマである交通弱者への対応を考える上で、生活に交通がどのように結びついているのかを再考する必要がある。前回は申し上げたが、市民・行政・事業者の3者が連携した対応が何よりも重要だ。

(委員)

何より地域が主体となり、地域協議会単位で交通を考えるのが重要だ。これに市がバックアップしていくというのが今後の進め方になるのではないかと。

(委員)

神戸市と舞鶴市の事例を紹介する。神戸市の山手方面では買い物に行けなくて困っている人がバスを走らせようと企画し実践している。地域の自治会、老人クラブ、NPO等で協議し、意欲を持っている事業者に運行を依頼している。補助金はもらっていないようだ。

舞鶴市は、バス事業者が撤退した後、地域住民が立ち上がって運行を再開した。費用は府と市が二分の一ずつ負担している。

(委員)

西宮市の事例を紹介する。特にコミュニティ交通支援について、市の関わり方が参考になった。地域の困りごとを話し合う場をつくり、合意形成が得られた後、コミュニティ交通に関する協議会を作って試験運行を実施している。市はあくまで地域での進行をサポートする立場だ。岸和田の場合は行政が主体となってやってきたのではないかと。ローズバスは、収支率が20%程度だが、この西宮市は80%を超える収支率となっている。やはり地域が主体となると運営面でもプラス効果が大きいのではないかと。

(座長)

ここで交通弱者の定義を再度検討する。

(委員)

交通弱者の定義を明確にしないと議論を進めにくい。どのような人を対象にするかによって議論の方向も異なってくる。

(委員)

交通弱者の定義を定め、対象を絞るのも必要だが、各委員それぞれが交通弱者と思っている事例を出し合って討議を深めていくのも一つの方法だ。障がい者、免許返納者など色々な事例が考えられるが、各委員がそれぞれの交通弱者事例を提案してはどうか。

(委員)

先般、一部の地域で、「今後あなたが必要とするものは何ですか？」というアンケートを実施した。その中で一番多かったのは、「買い物」ということだった。地域と業者

が話し合った結果、業者が地域の何か所かに来てくれることになった。行政は特に関与していない。

このように、住民が何に困っているのかをまず知らなくてはいけない。困りごとへの対応がすぐできるかはまた別ではあるが。

（委員）

他市の先進事例をみても、やはり高齢者が困っているという実態があるのではないか。

地域が何を望んでいるのか、どのような方法ですればいいのか実態調査をしなければ、具体的な対策が立てられない。

（座長）

今回は、先ほど委員から提案があったように、各委員が抱えている交通弱者の事例を出し合って、それに対して議論をしたい。次回の討論会は11月18日（月）13：00～だが、事例は1週間前の11月11日（月）までに副座長に提出してほしい。これで第4回分科会を終わります。